

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 川上村立川上小学校

教諭 川崎 貴寛

1. 単元名

「自分たちの川上村は自分たちで守る」川上村の防災教育 ～60年前の伊勢湾台風の記憶から～

2. 単元の目標

- ・伊勢湾台風による川上村での被害について学び、防災や減災の大切さについて理解する。
(知識・技能)
- ・川上村の防災や減災の取組について考え、防災や減災に必要な取組について考える。
(思考・判断・表現)
- ・防災や減災に取り組む地域の方々の思いから自分たちに出来ること、これからの川上村に必要な取組について考える。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、伊勢湾台風の被害から60年を迎える今年、川上村での被害の様子を学ぶことや当時を知る方への聞き取りから学習をスタートし、これからの川上村の防災や減災に必要な取組について学習を深めていく。伊勢湾台風による川上村での被害は、53名が死亡、19名が行方不明と「村史最大の惨禍」であった。しかし、川上村で生活する人たちは川上村の大きな出来事にもかかわらず、自分たちの村でどのような被害があったのかを知る人は少ないと感じる。また、川上村の過疎化や高齢化の課題と並行して伊勢湾台風の被害を経験し当時のことを語る事ができる地域の方も限られてきている。このような現状のなかで伊勢湾台風の被害から60年を迎える今年、これからの川上村を担う子どもたちが伊勢湾台風の被害から川上村の防災や減災について学習することはとても意味深いものだと考えた。この学習を通して子どもたちが「自分たちの川上村は自分たちで守る」という意識を高め、いつまでも安心して住み続けられる村づくりへ参画しようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童観

川上小学校では毎年、総合的な学習の時間に地域の学習を進め、地域に愛着をもっている児童が多い。本学級の児童は、昨年度に水のつながりについて学習し、水のつながりが人のつながりをつくることについて学んだ。そして、子どもたちは今年、総合的な学習の時間に川上村の歴史的な出来事について学習したいと伝えてくれた。子どもたちは日頃からテレビなどで社会の出来事に興味を持って学校で会話をする姿がある。現在、南海トラフ地震や地球温暖化による異常気象や豪雨災害など様々な課題があるなかで「自分たちが生活する川上村は自分たちで守る」という意識を子どもたちがもてるように学習を進めていきたい。

(3) 指導観

本単元では、伊勢湾台風による川上村での被害を切り口にし、防災や減災について学習を深める。文章や映像に残る記録だけでなく、当時の伊勢湾台風の被害を経験された方の記憶にも触れながら学びを深めさせたい。次に、これからの川上村を担う子どもたちが、伊勢湾台風の教訓から「自分たちの川上村は自分たちで守る」という地域愛を具体的な行動に移していくことを大事にしながらか学習を進める。自分たちが学習した内容を基に、今後の自然災害から自分たちの川上村を守るためにどのような取組が必要かを考え、自分たちが学習した取組を川上村民に広く知ってもらうための手段も考えて具体的な行動に移す。

学習を通して、自分たちがこれまで学習してきた内容を生かし、自分たちが考えた自分たちにできることを率先して行おうとするリーダーシップを育みたい。また、防災に携わる人たちや行政の方々、川上村で生活する地域の方々と協力しようとする協調性を育み、気候変動に具体的な対策を行いながら住み続けられるまちづくりをしようとする態度を育てていきたい。

(4) ESDとの関連

- ・学習を通して主に養いたいESDの視点

【責任性】：伊勢湾台風の悲惨さや防災・減災の大切さを学んだ自分たちにできることを考え、自分たちの川上村を自分たちで守ろうとする意識を川上村民に発信する。

- ・学習を通して主に育てたいESDの資質・能力

【協働的問題解決力】：子どもたちは、伊勢湾台風の聞き取りや防災の取組について学習を進め、自分たちにできることは何かを考えながら学習を深める。次に、学習した内容を防災パンフレットとしてまとめる。そして、村民全員に防災パンフレットを配布することにより学習した自分たちだけでなく、村民の防災意識も高めながら協働的問題解決力を育てることができる。

4. 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 川上村での伊勢湾台風の被害について理解する。 ② 防災活動の取組やそこに携わる方々の話から防災や減災について理解する。	① 伊勢湾台風のような自然災害の被害から地域を守るためにはどのような取組が必要かを考える。	① 伊勢湾台風の被害を体験された方や防災活動に携わる方の思いにふれて、自分たちの住む地域を自分たちで守るためにできることを考える。

5. 単元展開の概要（全8時間）

時	主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
1	<ul style="list-style-type: none"> 豪雨体験から伊勢湾台風の被害を受けた当時の川上村の様子について興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 豪雨体験から伊勢湾台風の被害を受けた川上村の当時の様子について想像したことや疑問に感じたことなどを自由に出し合わせる。 <p>学習課題：</p> <p>伊勢湾台風の被害を受けた当時の川上村はどのようなようすだったのだろうか。</p>  	◇ア①
2	<ul style="list-style-type: none"> 川上村での伊勢湾台風の被害について知る。 (動画や書籍で調べる) 	<ul style="list-style-type: none"> 家屋被害、人的被害の数や写真から具体的な被害の様子について理解させる。 調べ学習でわかったことをまとめて整理する。 調べ学習から更に興味を持った当時の様子を地域の方の聞き取りから確認出来るように意識をもたせる。 	◇ア①
伊勢湾台風当時の川上村の様子について聞き取り調査をする。(家庭学習)			
3	<ul style="list-style-type: none"> 当時の様子を聞き取り、被災者の気持ちや心の部分についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に伊勢湾台風の被害を体験された方の言葉から当時の様子を想像する。(自分たちが調べたことと対比させながら) <ul style="list-style-type: none"> 当時の様子(避難所での生活) 生活がどのように変わったのか 支援や復旧の活動について 当時と現在を比べて思うこと 記録だけではなく記憶の内容(心の部分)を大切にさせる。 これから伊勢湾台風のような被害から地域を守るために必要なこと、地域を守る取組にどのようなものがあるのか興味をもたせる。 	◇ア① ◇イ①
4	<ul style="list-style-type: none"> 地域を自然災害から守るための取り組みについて考える。 	<p>学習課題：</p> <p>地域を自然災害から守るためにどのような取組があるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災活動に携わる方の重要性を意識させる。 	◇ア②
5	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災のためにどのような取組をしているのか聞き取る。 	<p>学習課題：</p> <p>行政以外に自分たちにできることはどのようなことなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たち村民が具体的にできることと周りの人たち(行政や消防団、消防署)に協力してもらうことについて考えさせる。 	◇ウ①

6	<ul style="list-style-type: none"> 今後の自然災害から自分たちの生活を守るために必要なことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 公助だけでなく、自助や共助の大切さについて意識をさせる。 聞き取りから学んだことを整理し、実際に村民が防災や減災のために取り組んでいることに興味をもたせる。 	◇イ①
行政以外にも村民が取り組んでいる防災活動や防災意識を聞き取り調査する。(家庭学習)			
7	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちにできる取組を周知する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会で学習したことを伝えようと意欲を高めさせる。(協力してもらった方に学習の成果を伝える意識をもつ。) 自分たちが学んだ伊勢湾台風のことや防災・減災の取組を村民の方に広く知ってもらうための方法について話し合う。 	◇ウ①
8	<ul style="list-style-type: none"> 村長さんに自分たちが考えた防災や減災の取組を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の2つを提案する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 学習発表会で伊勢湾台風での川上村の被害について伝え、現在の村民の方の防災や減災についての意識を持ってもらう。 ② 防災減災パンフレットを作成し村の広報に入れて全村民に配布する。 	◇ウ①
			

6. 成果と課題

学習を始めた時は川上村の1つの歴史について学習しているような感覚であった子どもたちが、伊勢湾台風の聞き取りをきっかけに学習に取り組む姿勢が大きく変わった。涙を流しながら話してくれた方々の思いを大事にし、川上村を自然災害から守るために自分たちにできることは何かを真剣に考えられるようになった。

A児

防災の学習をする前は、川上村の歴史について学びたいという思いがあった。学習を進めるなかで、伊勢湾台風の被害にあった方や村の防災活動に携わる方の思いに触れ、伊勢湾台風のことや防災のことを知らない人に伝えていきたいという気持ちを強くもつようになった。

B児

学習の最初は、防災への関心が薄かったが、学習を通して自分たちが生活する川上村を自然災害から守っていききたいという気持ちが高まった。今後も防災の意識を強め、災害が起きた時には村民と協力して川上村を守っていかうと考えることができた。

C児 (2学期からの転入)

自分たちのことが考えの中心だったが、学習に携わってくれた人たちや自分たちの生活を支えてくれる人たちへの感謝の気持ちをもてるようになった。川上村に来てよかったと自分の生活する地域に愛着をもつことができた。